

令和 2 年度 学校経営方針

校長 日山 寿康

I. 経営の基底

「教育は人づくり」という視点に立って、「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を図る」ことを基底に、「～来がい、やりがい、学びがい～ のある学校」を目指す学校像として、学校経営を進めていきたい。

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動」を展開していく必要がある。

(1)【知育】……確かな学力

- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- 主体的に学習に取り組む態度の育成
- 個性を生かし、多様な人々との協働を促す教育の充実

(2)【徳育】……豊かな心

- 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞活動の充実
- 豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実

(3)【体育】……健やかな体

- 児童の発達の段階を考慮した体育・健康に関する指導
- 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現
- 食育教育、体力の向上、安全に関する指導、心身の健康の保持増進

※ 落ち着いた教育環境を整え、これまで取り組んできたことの成果や課題を確かめながら保護者の思いや願い、地域社会の期待を受け止め、それぞれの教職員の持つ力が十分に発揮されるよう学校経営に努めていく。

II. 経営の理念

- (1) 児童への学力保証及び成長保証
- (2) 児童の立場に立っての「生きる力」の育成
- (3) それぞれの教師の資質向上及び組織としての機能の発揮
- (4) 家庭や地域に開かれた学校

1 教育目標 『心豊かにたくましく生きる子ども』

2 めざす学校像・子ども像・教職員像

(1) めざす学校像 「～来がい・やりがい・学びがい～ のある学校」

◎来がい

- 児童 学校が楽しい、友達に会える、自分の居場所がある、勉強が楽しい。
- 職員 子どもに会える、先生方に会える、自分の役割がある。
- 保護者・地域 子どもの様子を見たい、行事を見たい、保護者・地域を大切にしている。

◎やりがい

- 児童 勉強をしたい、運動をしたい、部活動がんばりたい、委員会・クラブ・係・当番などをがんばりたい。
- 職員 学習指導、校務分掌、行事、部活動等、やりがいがある。
- 保護者・地域 P T A 活動、学校行事の手伝い、部活動の手伝い、地域ボランティア、子ども会、子どものためにやりがいがある。

◎学びがい

- 児童 勉強が分かる、運動ができるようになる、色々なことを知りたい、
- 職員 教材研究、校内研修、日常の学習指導、校外研修、自分を向上させたい。
- 保護者・地域 P T A 研修、親子会議、学校行事、保護者・地域も学べる。

①確かな学力と豊かな心を育む学校	【経営の理念（１）、（２）】
②児童と教師が共に高め合う学校	【経営の理念（２）、（３）】
③家庭・地域と連携し、信頼される学校	【経営の理念（４）】

（２）めざす児童像＝努力目標

- | | | |
|------------|-----|----------------------------|
| ①進んで学ぶ子 | 視点１ | めあてをもって、主体的に学習に取り組む子 |
| | 視点２ | 基礎・基本を身に付け、自分の考えや思いを表現できる子 |
| ②思いやりのある子 | 視点１ | 友だちと仲良くし、互いに協力できる子 |
| | 視点２ | 進んで元気に挨拶・返事ができる子 |
| ③健康な体をつくる子 | 視点１ | 運動・健康のめあてをもち、進んで運動に取り組む子 |
| | 視点２ | 良い生活習慣を心がけ、規則正しい生活ができる子 |

（３）めざす教職員像

- ①自己の研修を積み、確かな学力の定着と向上に努める教職員
- ②児童と共に行動し、児童の変容に努める教職員
- ③組織の中で自己の力を発揮し、同僚性を大切にして協働する教職員

- ・自分のやるべきことは責任を持って果たす教職員
- ・課題等について気軽に相談したり、意見交換し合える教職員
- ・学校経営に参画意識をもった教職員
- ・保護者、地域の人々を大切にする教職員

（自分の力の発揮、教職員の団結、責任、協働の精神）

Ⅲ. 基本方針

- 1 組織が機能する経営の推進
- 2 確かな学力の定着と向上
- 3 命を守る安全教育の充実
- 4 望ましい集団づくり
- 5 開かれた学校の推進

Ⅳ. 経営の重点と具体的方策

1 進んで学ぶ子

- ①わかる授業の実践
 - ・特別支援教育の視点を踏まえての学習指導、主体的な学習の推進
- ②基礎・基本の定着
 - ・新学習指導要領に即した教育課程の確実な実施
- ③家庭学習の習慣化
 - ・学習時間
 - ・自主学习
 - ・学習内容の質の向上
- ④小・中連携
 - ・系統性をふまえた効果的な指導計画
 - ・相互の授業参観による指導改善
 - ・児童・生徒間での学習等の交流
 - ・情報交換と生徒指導面の連携

2 思いやりのある子

- ①道徳の充実
 - ・道徳科における授業の充実
 - ・道徳と関連させた教科経営
 - ・体験活動の充実
 - ・行事と関連づけた道徳科の授業
- ②特別活動の充実
 - ・児童会活動の活発化
 - ・学校行事の充実
 - ・人間関係づくりを重視した学級経営
 - ・体験活動の充実
 - ・奉仕活動の啓発
 - ・折り合いをつけ集団決定する力の育成

3 健康な体をつくる子

- ①家庭との連携による基本的な生活習慣の確立
- ②生活意識の向上
 - ・あいさつ運動の推進
- ③生徒指導・教育相談の充実
 - ・「報(告)・連(絡)・相(談)・確(認)」の徹底と共通理解、共通実践による組織的な指導
 - ・職員会議、生徒指導情報交換会等を活用した共通理解

- ・養護教諭や家庭、関係機関等との連携
- ④健康・安全意識の向上
 - ・清掃活動の充実
 - ・避難訓練の充実
 - ・快適な生活環境の維持
 - ・健康教育、安全教育の日常化
 - ・食育指導の充実

4 家庭・地域と連携し、信頼される学校

- ①積極的な情報公開
 - ・各種通信の定期的発行
 - ・地域関係団体、関係機関との連携
- ②情報の受信
 - ・学校行事での保護者、地域との交流
 - ・保護者集会における情報の把握
 - ・必要に応じた家庭訪問や電話での連絡
 - ・ボランティアを活用した地域との連携

5 子どもと共に行動し、子どもの変容に努める教職員

- ①研修の充実
 - ・授業実践に基づいた校内研修の充実
 - ・資質向上を目指した日常の授業研修
 - ・校外研修への参加と研修内容の共有（発表の場、資料の提供、伝達）
 - ・生徒指導、教育相談能力の資質向上を目指した研修
- ②積極的な教育相談の実施
 - ・引き続き学校不適応にさせないための指導の共通理解
 - ・定期的、継続的な相談活動
- ③運動や伝統芸能に親しむ活動の活性化（卓球部・神楽クラブ）
- ④教職員の団結と協働
 - ・中期的・長期的な計画を立て見通しを持った実践ができるようにお互いに協働に努める。

V 学校目標について

1 学校目標 「『確かな学力の育成』～主体的な学びの中で～」

〔設定理由〕

- ①小規模校での複式学級2学級（3・4学年と5・6学年）及び単式学級2学級（1・2学年）において、主体的な学びの中で基礎・基本の定着を図ることにより、学力低下を防ぎ、確かな学力を身につけさせたい。
- ②各児童の学力を分析し、個に応じた指導をすることにより、個人差をより少なくすると共に、上位の児童の学力もさらに向上させたい。
- ③学習および様々な場面で意欲的に取り組み、主体的に活動できる児童を育てたい。
- ④児童によりよい家庭学習の習慣を身に付けさせたい。

〔重点施策〕

- ①基礎学力[読む・書く・計算]を身に付け、基礎・基本の確実な定着を図り、確かな学力の育成を図る。（特別支援教育の視点、ICT活用）
- ②主体的な学びの視点での授業改善を図る。（見通しを持つ、粘り強く取り組む、学習を振り返り次につなげる、複式指導ガイド育成）
- ③家庭と連携し、家庭学習の習慣化と充実を図る。

〈具現化のための具体的な方策〉

- ①-1 全校一斉に校内テストを実施する。（漢字・計算、年3回）
- ①-2 特別支援教育の視点に立った個に応じた指導、環境づくりを行う。
 - ※学力テスト等の諸調査の結果分析とその活用を図り、学習指導に生かす。
 - ※島小っ子カード（指導に対する自己評価票）を活用した児童の指導目標の設定と評価を行う。
- ①-3 基礎・基本の定着を図るための指導を充実させる。（学習後の確かめや見とり、フリータイム等での補充学習、読書活動など）
- ②-1 学習の見通しを持たせ、意欲を高め、粘り強く最後まで取り組むよう指導法の工夫を行う。（めあて、課題、まとめ）
- ②-2 学習の振り返りを次の学習につなげられるような指導法や場の設定を工夫する。
- ②-3 複式指導での学習リーダー（ガイド）を育成し、ガイドを中心とした主体的な学習活動を進める。（単式指導でも生かす。）
- ③-1 家庭学習での家庭との連携を図る。（家庭学習の手引き、学級便り等）
- ③-2 家庭学習の課題の内容や出し方を工夫する。（望ましい量、質、自主学習ノート）